

I 調査研究目的

国際博物館会議（ICOM）大会が平成 22 年（2010）に上海で開催されることを踏まえて、アジア太平洋地域の博物館振興における日本の役割をより明確にすることと、博物館の国際交流を担う人材の発掘や育成についての提言を行う。あわせて、日本とアジア諸国の博物館単位での交流や姉妹都市における博物館の交流事例にも注目し、事例を調査・比較検証することで、現状の課題や成果についての調査を行う。

II 調査研究内容

1 調査研究項目

- (1) アジア太平洋地域の博物館が日本に求めている博物館の果たすべき役割の明確化・現状調査・分析・提言
- (2) 博物館の国際交流を担う人材の発掘、国際対応できる人材育成に関する基礎データの収集・分析
- (3) 人材開発やアジア太平洋地域の博物館（職員）にとって求められている教育研修プログラムの分析・開発・提言
- (4) 日本とアジア諸国の博物館交流事例の現状調査・比較検証
- (5) 報告書の作成と周知

2 研究体制

本事業遂行のために委員会を設置し、この委員会のもとにワーキンググループとして、国内調査班、海外調査班、人材養成プログラム開発プロジェクト班の 3 つのグループを設けた。この 3 つの班は、相互に情報共有を図りながら調査研究を進めるものとした。委員会では、主として博物館政策、博物館の活性化策、支援策の提言、国際社会における日本の博物館の位置づけ、国際連携の方策、今後の在り方等について分析し提言を行った。

この委員会を構成するメンバーは、博物館関連学会の要職者、博物館館長、有識者、文化政策研究者などの委員で構成した。ただし、博物館政策や博物館活動支援策に関する国際比較のためのワーキンググループのメンバーには、中堅・現職博物館学芸員や博物館学専攻の大学院生など若手研究者を登用した。委員は複数のグループを兼任することとし、海外調査、国内調査、円卓会議の開催、および原稿執筆等、報告書の作成を行った。

本委員会、および調査研究の全体統括には、博物館関連の国際調査の経験が豊富

な学識経験者を充てた。第1回委員会において、委員の中より本調査研究の統括リーダーを選出し、統括リーダーのもとに事務局を置き、これら、委員会とワーキング会議による調査研究を推進した。

以下、「博物館支援策にかかる各国比較調査研究」委員会委員（五十音順）

東 洋一	福井県立恐竜博物館	副館長
井上 洋一	東京国立博物館	事業部事業企画課長
大堀 哲	日本ミュージアムマネジメント学会	会長
	長崎歴史文化博物館	館長
水嶋 英治	常磐大学大学院ミュージアム領域	教授・研究科長
(ワーキンググループ)		
菊池 弥生	岩手県遠野市立博物館	諮問委員
	アジア・アフリカ図書館	司書
中村 隆	科学技術館	学芸員
ビョウ 表	スンファ 淳花	韓国 漢陽大学 大学院生（博物館学専攻）

事務局 文化環境研究所 所長 高橋 信裕
主任研究員 吉田 雅之
研究員 山城 弥生

3 実施スケジュール

実施月	作業内容	委員会
10月	業務開始 ・ヒアリング項目 設計・実施 ・アンケート項目 設計・実施 ・文献調査、ウェブサイト調査 ・海外調査 中国訪問調査(博物館協会等) ・韓国調査 (日中韓博物館円卓会議事前準備)	有識者・博物館館長・若手職員から構成される委員会を開催 (第1回)委員会
11月	1-3日 ASEMUS 総会(マニラ)出席・調査	
2月	11日 日中韓博物館円卓会議開催	(第2回)委員会
	27日 フランス国立文化財研究所等(パリ)ヒアリング調査	
3月	報告書とりまとめ	